



村山医療センター全景



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

患者さんの権利と意思を尊重します。

安全で優しいチーム医療を提供します。

倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。

地域医療連携の促進を図ります。

骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。

職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

糖尿病患者と後縦靭帯骨化症

(特に糖尿病治療に携わる内科の先生方へむけて)

整形外科 矢内 嘉英

後縦靭帯骨化症 (ossification of posterior longitudinal ligament : OPLL) は厚生労働省の特定疾患にも指定されており、本邦では年々その医療受給者証所持者は増加し、およそ4万人にもものぼります。また、日本の OPLL 発生頻度は約3%であり、欧米諸国よりも高率に発生する傾向があります。日常の外来診療でも徐々に患者さんに OPLL が認知されてきている印象を受けております。

OPLL は遺伝的背景を有する多因子疾患と考えられています。詳細は不明ですが、カルシウム代謝異常、肥満、耐糖能異常などが主な因子として挙げられています。特に我々の日常診療中、OPLL 患者で目立つのは糖尿病の合併です。統計的にも、糖尿病患者の靭帯骨化の割合は16%程であり、人口あたりの割合(3%程)より高い傾向があります。糖尿病の加療が必要な患者さんも年々増加していることから、その中で靭帯骨化症の存在も無視できない状況です。

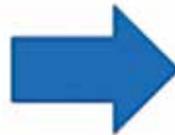
後縦靭帯骨化症は無症状であることや、頸部痛や肩こり、軽度の痺れ症状に留まることも珍しくありません。特に、糖尿病患者さんの中には糖尿病性神経障害を伴うこともあり、軽度の症状では気づきにくいことも多いと予想されます。しかし、OPLL の患者さんは症状が軽度でも脊髄の圧迫が高度なことがあり、転倒等で急速に症状が悪化したり、軽度な症状が徐々に悪化した結果、細かい作業がしにくくなる巧緻運動障害や歩行障害などの脊髄症状をきたして来院される患者さんも多く存在します。脊髄症状は、一度進行・悪化すると手術をしても改善が難しくなります。そのため、OPLL は脊髄圧迫が明らかであれば、症状が軽微であっても早期に手術を検討する必要があると考えております。

手術に関しては、我々はなるべく低侵襲な手術を心がけております。頸椎の手術では、Skip laminectomy 等の後方筋組織を温存して術後の疼痛や後弯変形などを最小限にする術式を選択することが多いです。しかしながら、高度な骨化の場合は、前方もしくは後方からの固定が必要になることもあります。

術前



術後



顕微鏡視下の低侵襲頸椎除圧術

内科の先生方は、糖尿病治療に関わることは大変多いと思います。万が一、糖尿病性神経障害では説明がつかない症状を訴える患者さんがいましたら、軽度の症状でも結構ですので、是非一度当院へご紹介ください。整形外科的な視点で評価させていただき、結果に応じて適切な治療を考えたいと思います。

近隣の先生方にもご協力いただき、より早期に OPLL の治療を行なっていければ幸いです。

新任スタッフのご挨拶

整形外科医師 大久保 寿樹



2019年4月より慶應義塾大学病院より赴任致しました大久保寿樹と申します。

専門は脊椎・脊髄疾患を中心に行なっております。

大学では脊髄損傷などに対する脊髄再生の研究も行なっておりました。

今回、伝統ある村山医療センターに赴任することができ、非常に嬉しく思っております。

首、背中、腰など背骨に関するあらゆる疾患に対応し、患者様に優しい医療を心がけております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

整形外科医師 小池 智之



2019年4月から当院に赴任いたしました、小池智之と申します。

横浜市立大学形成外科を経て、昨年度まで埼玉手外科研究所に勤務し、手外科や外傷を中心に顕微鏡を用いた四肢の組織再建などを行っていました。

今回、前勤務先で一緒でした手外科の加藤直樹先生に誘って頂き当院に参りました。

上肢、手、指を中心に外傷、拘縮、変形性関節症、手根管症候群などの末梢神経疾患の診察を行っております。手は、機能面だけでなく、露出部であるため外見も大事です。専門は形成外科ですので、整容面にもこだわり診療していきます。

安全な医療を心がけて、努力して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



リハビリテーション科 大嶋 理

4月1日からリハビリテーション科に着任いたしました大嶋理と申します。私は元々、神経内科医として脳血管障害や末梢神経障害、神経変性疾患などを中心に診療に当たっておりましたが、障害を抱えた患者様の生活を支えられる医師になりたいという思いから、2年前にリハビリテーション科に専門を移しました。昨年までは慶應義塾大学病院にて研鑽を積ませていただき、本年度からは当院の回復期リハビリテーション病棟を担当いたします。私は「障害の有無と、その患者様が不幸せかどうかは無関係である」と考えています。障害があっても、その方が持つ可能性を摘み取ることなく、自分らしく生きていくお手伝いできれば幸いです。まだ着任して間もないですが、自然豊かな村山の空気と、温かなスタッフの皆様を迎えていただき、非常に働きやすい環境だと感じております。患者様やご家族の力になれるよう尽力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務部長 平田 敏昭

4月より神奈川県秦野市にあります神奈川病院から当院に配属となりました平田敏昭と申します。

当院に着任しまして、こちらでは新病棟が完成し運用を始めたばかりということで、その真新しい病棟を目の当たりにしまして、まさに今、当院は変わっている時期であり、狭隘となっており、皆様にご不便をお掛けしています外来棟の立て替え等、これからの職務に一層身の引き締まる思いでございます。

当院の「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。」という理念のもと、新病棟が療養環境の更なる向上となり、「村山医療センターならなんとかしてくれる」と患者さんにいつも思っていただけのように、そのことを裏切らない病院として、村山医療センターの全職員とともに、事務職という立場から今後も地域に根ざした医療を市民の皆様提供していけますよう頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

薬剤部長 田辺 和生喜

2019年4月1日より、国立病院機構甲府病院から異動により赴任いたしました。

村山医療センターには4年ぶりに戻って来ました。当時は治験管理室に勤務しておりましたが、現在、部屋は特殊診療棟に位置しており、また、綺麗な新病棟が完成して新鮮な雰囲気を感じております。

現在、病棟3か所（第4～6病棟）に薬剤師が配置されて病棟薬剤業務を行っており、薬剤師はより一層チーム医療に参加するようになって来ました。

これからも患者さんに寄り添いながら、安全で快適な医療を提供できるよう努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

第11回 院内臨床研究発表会を開催しました

臨床研究部長 吉原 愛雄

平成31年3月28日（木曜日）、平成最後の年度末行事として臨床研究発表会を開催致しました。本発表会は今年で11年目を迎え、日頃の臨床研究の成果や診療、検査に関する調査結果などを発表するものであります。今年は年度末に加え新病棟への引っ越しや竣工記念行事など、例年以上に業務多忙の時期となりましたが、多数の演題を応募していただき盛大に開催することができました。

始めに、朝妻院長の開会の挨拶の後、最初の演者として前医療安全担当師長の佐藤さんから医療安全の分析手法についての講演をいただきました。医療安全管理室からは、看護師の村山さんからも急性期頸随損傷の治療に関する講演をいただきました。医療安全は診療を行う上で欠くことのできない領域であり、今後も活発な調査、研究を進めていただきたいと思います。

次に、看護部（外来）の芳賀さんが、骨粗鬆症薬の自己注射の指導に関する講演を行った後、リハビリテーション科作業療法士の熊澤さん、大貫さん、鈴木さん、看護部（旧8病棟）の森田さんから、頸随損傷に関する4題の講演をいただきました。頸随損傷患者さんの座薬挿入の工夫や、リハビリテーションによる日常生活動作（ADL）の変化や予後予測、退院後のADLの変化など、興味深い内容が発表されました。脊髄損傷はADL障害を引き起こす重篤な病態であり、今後も診療にフィードバックできるさらなる研究を期待します。

次に、看護部（旧2病棟）の高橋さんが脊椎手術における浣腸に関する調査結果を講演し、臨床検査科の望月さんは関節リウマチ患者さんの血液検査データを講演しました。その後、リハビリテーション科理学療法士の堀川さん、田嶋さん、山本さんから、リハビリ機器として使用している HAL (Hybrid Assist Limb)、ストレングスエルゴ、吊り下げ式トレッドミル、EXCITE BIKE、InBodyを用いたリハビリテーションの効果、教育、問題点に関する講演が行われ、同 理学療法士の菊地さんは地域包括ケアシステムに対するリハビリテーション科の取り組みについて講演を行いました。高齢化社会を迎えた今日、リハビリテーションは健康寿命の延伸に繋がる重要な分野になります。

最後のセッションでは、当院外来診療部長の竹光先生から、痙性対麻痺に対するバクロフェン療法に関する講演があり、続いて手外科センター長の加藤（直）先生から、高齢者における母指CM関節症の治療に関する約30分のレクチャーで会を締めくくっていただきました。

新築の香りが残る新病等での開催となりましたが、例年以上に力が入った講演を行っていただき、とても有意義な発表会になりました。また、各部署における疑問点や創意工夫の状況、実際に努力していることなどを、職種を超えて互いに知ることができるよい機会となりました。病院全体の医療レベルの向上につながる非常に有益な会であったと感じております。職員の皆さんは、今後もさらに活発な調査、研究を宜しくお願い致します。



(優秀賞受賞者)

薬剤部の紹介

薬剤部スタッフ一同

薬剤部は9名の薬剤師と2名の薬剤助手で業務を行っています。

薬剤師の重要な仕事として、昔から調剤があります。主に、入院患者さんの処方箋を調剤して患者さんのお薬を準備します。

その他に、患者さんの注射薬の準備もします。抗がん剤などを混ぜて準備することもあります。

患者さんが村山医療センターに来られて、外来から薬剤部で薬をみせていただくことがあると思います。患者さんがお使いになっている薬がどんな効果の薬なのか、どのくらい飲んでいて、服用回数とかをお聞きすると思います。これは、手術や検査などに影響がある薬があるため、それらを確認させていただくためです。このように、皆さんがお使いになっている薬の情報を医師や看護師に伝えるのも薬剤師の重要な仕事です。もし検査や入院されることがありましたら、お使いになっている薬についてすべてお話しください。

また、薬剤師は、入院されている患者さんに、お使いになる薬の説明をしに行くことがあります。その際には、薬の使い方は勿論、この薬は飲みにくいとか、薬について御相談ください。

お使いになっている薬の確認をする際に、他の医療機関からの情報提供書とか、「お薬手帳」をみせていただくことがあります。この「お薬手帳」は皆さんがお使いになっている薬を確認するのに非常に重要なものです。患者さんの中には、当院だけでなく、いくつかの医療機関にかかっている方もいらっしゃると思います。そのような方にもこの「お薬手帳」は重要です。色々な医療機関から処方され、お使いになっている薬がすべて一つの手帳に記載されていれば、それぞれの医師等が情報を共有できます。薬剤師は薬の相互作用とか重複をチェックすることができます。ですから皆さんは「お薬手帳」を一つお持ちになって、どの医療機関でも調剤薬局でも必ず持参して、それをみせるようにして下さい。

薬について、何か御相談がありましたら医療機関や調剤薬局の薬剤師に御相談下さい。

また、村山医療センターでは、「治験」といって、厚生労働省から薬として承認を受けるために行う臨床試験も行っています。御興味がありましたらホームページ等を御覧ください。



外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一般外来

※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで

令和元年6月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備考		
内科	片寄	岡田	片寄	岡田	岡田			
外科	大石	飯野	松岡	飯野	大石			
整形外科	再診	脊椎	○朝妻 ○竹光 田原	◎谷戸 ◎藤吉 加藤(貴) 松林	○○金子 山根	○○許斐 矢内	松川 辻 大久保	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水		大木	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
		手	加藤(直)	小池	加藤(直)	小池		手指・上肢
		一般		片山				
	初診	交替制						
リハビリテーション科	富岡	植村	松田		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…松田 第2金…植村 第3金…富岡		
歯科	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制		

■ 専門外来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00～)		予約制
側弯			金子 (13:30-15時)	金子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/松田 (13:00～)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30～)		岡田 (午前11:30～)	岡田 (午前11:30～)	予約制
骨粗鬆症・筋老化					竹光 (第1-3週13:00-15時)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診療日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科) 随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210

URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>